

生徒の認知機能, および 社会情緒的コンピテンスと 学習意欲の関連 (若手奨励研究)

小林亮太

福岡県立大学 人間社会学部 人間形成学科 心理コース 講師

令和4年度附属研究所研究奨励交付金事業成果報告会@2023.3.7 (10:30-10:45)

◆ 学習意欲に関わる心理学的要因

- 学習意欲に関わる心理学的要因は数多く報告されている
- 本研究では, トレーニングしやすさなどを考慮し,
 - メタ認知
 - 社会情緒的コンピテンスに焦点を当てる

◆ 学習意欲に関わる心理的要因

ー メタ認知

ー 自分の認知について認知する過程 (三宮, 2008)

ー e.g., 無知の知: 知らないことを知っている

ー e.g., 自分の得意な学習方法を理解している

→ メタ認知により, 様々な活動を客観的に把握し, 誤りを修正したり, 望ましい対応を行うことができる

ー e.g., 丸暗記という学習方法が好成績に繋がらないとメタ認知されると, 別の学習方法への移行が生じる



◆ 学習意欲に関わる心理学的要因

ー 社会情緒的コンピテンス

ー 自己理解や感情調整, 他者・集団との関係性構築
に関わる心理的特性・能力 (遠藤, 2017)

ー e.g., 自分がいらいらしていることに気づく

ー e.g., 嫌なことがあっても八つ当たりせず, 適切に対処する

→ 社会情緒的コンピテンスに優れば, 学習時の不快感情への
気づき・調整ができ, 学習状態が良好なまま維持される

◆ 本研究の目的

－ 本研究では、メタ認知と社会情緒的コンピテンスの両者がどのように学習意欲に関わるか検討する

－ 仮説

メタ認知と社会情緒的コンピテンスの片方が高いだけでは不十分で、学習意欲は高くないと予測される

メタ認知と社会情緒的コンピテンスの両者に優れる場合に、学習意欲が高くなる と考えられる

※ 他にも目的や仮説を設定していましたが、本日は上記仮説に絞って発表します

◆ 参加者

－ クロスマーケティング社を介したオンライン調査

－ 中学1年生～高校3年生

→ 最終的な解析対象は**237名** (男性116名, 女性121名, 平均年齢15.278歳 (SD=1.758))

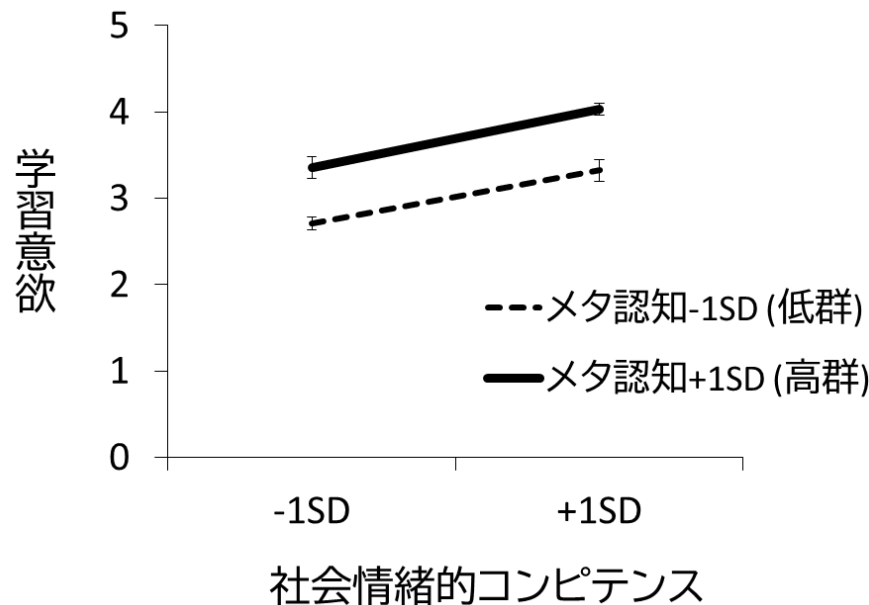
◆ 学習意欲を目的変数とした重回帰分析

－ 交互作用 非有意: $\beta=.022, p=.662$

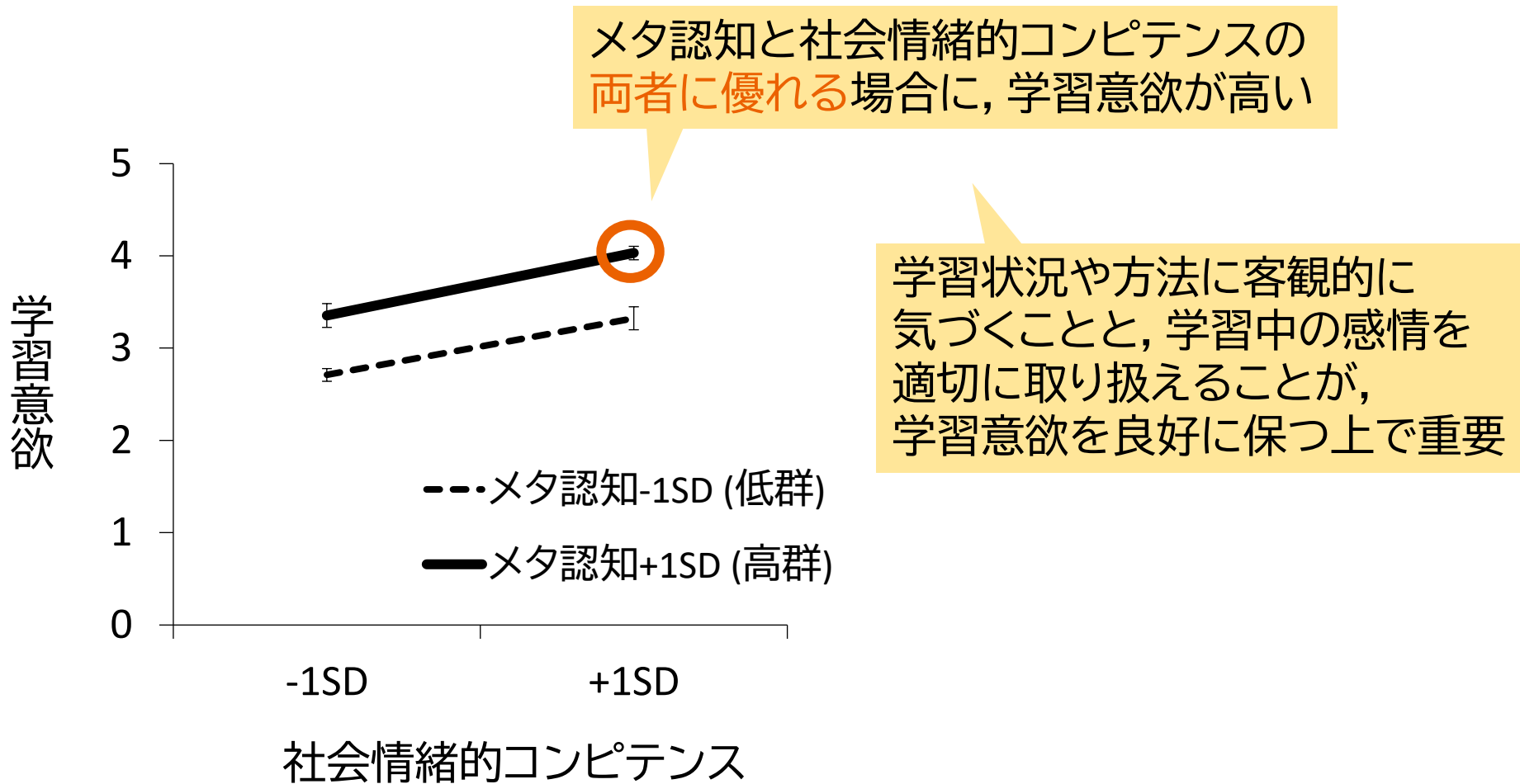
－ メタ認知 主効果 有意: $\beta=.369, p<.001$

－ 社会情緒的コンピテンス 主効果 有意: $\beta=.352, p<.001$

予測に反し、交互作用は非有意
→ 本日は、主効果を中心に考察

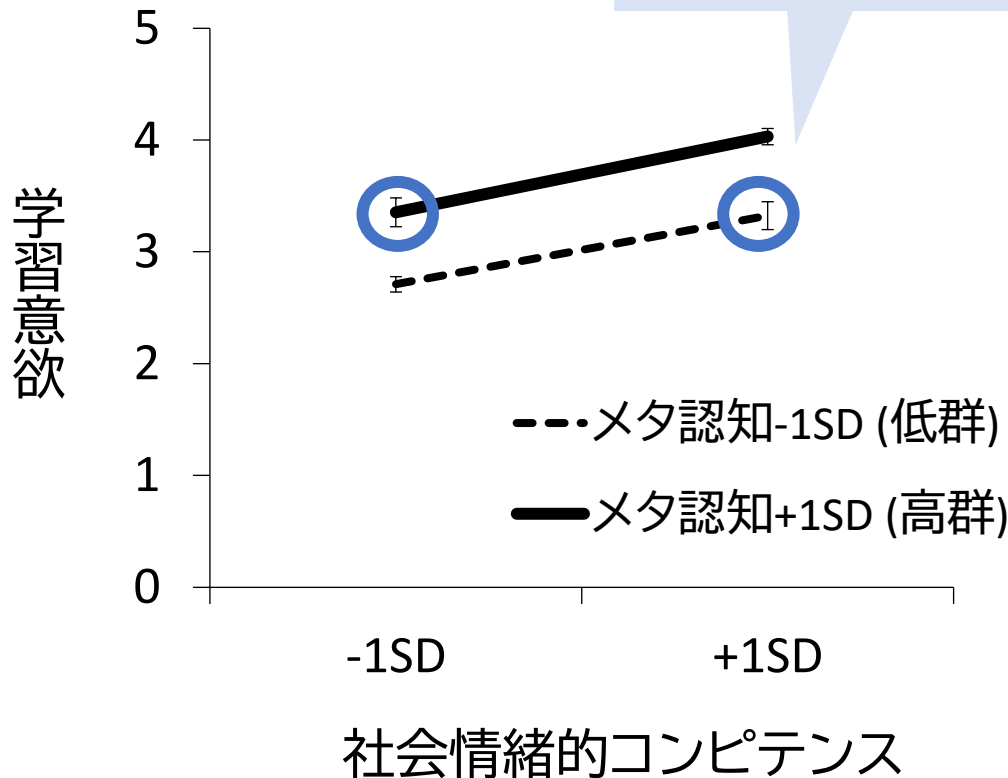


◆ 重回帰分析 (目的変数: 学習意欲)



◆ 重回帰分析 (目的変数: 学習意欲)

メタ認知と社会情緒的コンピテンスのいずれかが苦手 (-1SD) でも, 他方に優れれば (+1SD), ある程度学習意欲は保たれる



学習意欲を高めるには,
・ 苦手を解消する, だけでなく
・ 得意を伸ばす, ことでも
対応できるかもしれない

◆ 今後の展望

- － メタ認知と社会情緒的コンピテンスの両者に優れる場合に、最も学習意欲が高くなりやすい、可能性が示唆
- 今後はどうしたら生徒のメタ認知や社会情緒的コンピテンスを効果的に促進できるのか、について検討する必要
- － e.g., 社会情緒的コンピテンズ
 - － 感情語彙を増やすワーク

結果と考察（補足）

◆ 限界

- － 横断調査のため、因果の方向性は不明瞭
 - － 学習意欲が高かった人が (積極的な学習への取り組みの結果) メタ認知や社会情緒的コンピテンスが高くなったのかも
 - － メタ認知や社会情緒的コンピテンスを高める介入を行い、その結果として学習意欲が変化するか検討する必要

発表は以上になります。

ご清聴ありがとうございました。